
そうだ、お題で短編を書こう！

羽衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そつだ、お題で短編を書こう！

【コード】

N8694W

【作者名】

羽衣

【あらすじ】

1年365日のお題をかりて短編を書いていこうという無謀な挑戦。

01 無限増殖

「ねえ、また増えてない？」

「……き」

「気のせいじゃないわよね？」

「……」

「私、言ったよね？今度、増やしたら別れるって」

「……」

「どうするの？こんなに増やして……」

「しかし……」

「『しかし』じゃないわよ、どうするの？」

「……だって、かわいそうじゃないか！……」

「だからって、こんなに増やしてどうするの！……」

「数があればきつと！……」

「数があっても無理なものは無理なのよ！……」

「そんなことはないはずだ！彼らにだってできる！……」

「その辺の冒険者にやられて終わりよ!!」

「な、なんてことを言うんだ!!」

「だってそうじゃない!!レベル1のスライムなんて!!」

その言葉に色とりどりのスライムがぶよぶよ動いた。

にやにやにやにやにや・・・にやにやにや、にやにやにやにや、に
やにやにやにやにやにやにやにやにやにやにやにやにやにやにやに
んだにや？変にや質問するにやー、誇りって食えるのかにやー？違
うって？じゃあ、にやんだ？んーお前の説明じゃ意味がわかにや
いにや・・・おっと、そろそろ見回りの時間だからお別れにやー（

・・・この馬鹿！！！お前はどこでなにを取材してきてるんだ！！
えっ？ああ大工までいい、問題はそれ以降だ！取材をしに行つて
執事に気を使われてどうする？！だいたい、猫に取材するやつがい
るか？！えっここにいて？！この・・・馬鹿者！！！！！！

あなたの誇りは何ですか？

03 帰る家

「ただいまー」

私は誰もいない部屋に向かつていつものように声をかける。

数十年間続けてきた習慣は数週間で消えるものではない。今まで一緒に暮らしてきた祖母が亡くなり、悲しみにくれる間もなく日々はながれる。生きている限り、人は働かなくてはならない。

当面は、祖母が残してくれたわずかな財産でどうにかなるが、あまり使いたくない。

なにがあるかわからないし、その財産は祖母の気持ちだ。

私には両親がいない。

なぜ、いないのか祖母に聞いたがよくわからなかった。ただ、時がくれば迎えがくると言っていたので死んでいるのではないかと思っている。

そう、思っているのだ。なぜなら、私が両親は死んだのかと尋ねても祖母は柔らかく笑うだったから。

「・・・こんなものか・・・」

少しずつ、祖母の荷物を片付けていく。使う主を失った道具たちは少し寂しそうだ。

私は病床の祖母から託された指輪をゆっくりなでる。そうすると、不思議と心が落ち着くのだ。荷物を片付けていて寂しくなったみたいだ。

ここ数週間はいろいろとやることがあったのでなんとか乗り切れたが明日からは落ち着くのでどうなるかわからない。

私は孤独を酷く恐れている。とても恐いのだ。考えようとしなかつ

たが私は今、独りなのだ。

「恐いよ、おばあちゃん・・・」

指輪を握り締める。

その時、唐突に視界が開けた。

「・・・え？」

家にいたはずなのに、私が今いる場所はどこかのホテルの一室みたいな部屋だ。

いや、ホテルの部屋とは決定的に違う点がある。

「おかえりなさい、姫」

物語の中でしか見たことのないようなかっこいい人が立っていたのだ。

03 帰る家（後書き）

召還されましたー。

04 逃げられない、逃がさない

「今日こそ逃がさないわよ!!」

「いや、逃げる!」

「っちょ、待ちなさい!」

「待つてと言って待つバカがどこにいるー!!」

「卑怯者ー!!!」

いつもと同じ光景に友人たちは呆れた顔を向ける。

「なんだかんだで仲いいよね、あの二人」

「まあ毎回追いかけてっこしてるもんねー」

「決着なんてつかないのにねー」

「よく飽きないよね」

「確かに・・・」

「何気に楽しんでいるからかしら?」

「それもあると思うけどさっぱり・・・」

「やっぱりっ？」

「追いかけられると逃げたくなるからじゃない？」

「・・・それって」

「さて、実際に逃げているのはどっちでしょっ？」

05 カーテンの向こう側

「うーん、なぜだろう?」

目の前に広がる景色を見ながらここ数日の記憶を掘り起こし、なん
でこんなことになったのか考える。

「・・・ごめん、他に好きな人ができたから別れて」

高校から付き合っている彼女に突然振られた。指輪を用意してプロ
ポーズする直前だった。

「えーっと」

頭が混乱する。

この間まで海外での拳式とかいいね、指輪はやっぱり誕生石がい
いわって・・・。

「他に好きな人が出来たの・・・あなたのことは好きだけどその人
みたいに愛せないわ。」

そう言っ
て彼女は去
って行っ
た。

正直言っ
て次の日か
らの記憶は
あまりない。

とりあえ
ず、会社に行
って仕事を
こなし、夜は
夜で、お酒
で気をま
ぎらす毎日
を送って
いたと思
う。

そして、
いつも通
りの朝を
迎えるは
ずだっ
た。

「それが
なんでこ
うなっ
たんだ
・・・」

いつも
のよう
にカー
テンを
開けた
らそこ
には見
たこと
のない
景色が
広がっ
ていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8694w/>

そうだ、お題で短編を書こう！

2011年10月25日19時11分発行